

新ビジネス創出

NTT東日本グループ会社のソリューション群

③

日本テレマティークのアルコールチェックサービス

酒気帯び運転の撲滅をめざした法整備が進んでいる。アルコール検知器を使ったアルコールチェックも普及している。こうした中、日本テレマティークは白ナンバー事業者向けにクラウドでアルコールチェックの管理を行うサービス「アルコールくん」をリリースした。

日本テレマティーク 企業の安全運転管理は、白ナンバー事業者は、このサービスを向けにクラウドでアルコールチェックの運用管理を行うサービス「アルコールくん」を今月から展開している。



藁科氏と保坂氏(左から)

「アルコールくん」を便利に利用できるよう、スマホアプリを作成して連携させサービスを充実させた。5台以上保有の事業者に訴求

周知の通り、10月か

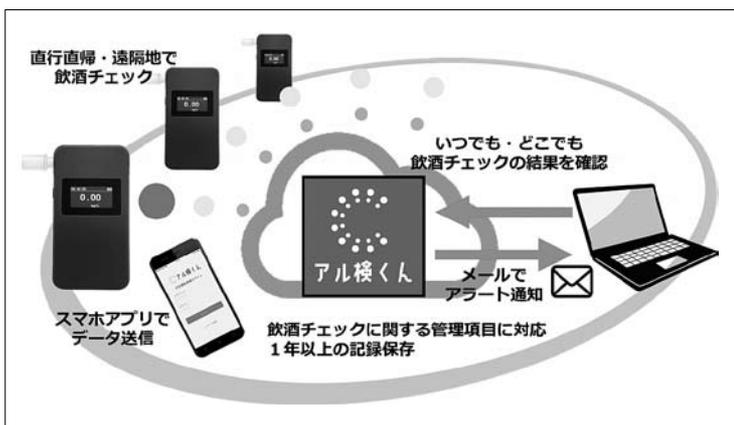
録する仕組みを開発したが、クラウドサービスの開発には至っていなかった。一方、お客さまの声を聞くと、これまでの運用に加え、アルコールチェックの管理が入ることで、工程や作業、記録簿が増えて想像以上に手間がかかるのとことだつた。お客さまの要望に応えるにはクラウド化が有効と判断し、当社でもクラウドサービスを立ち上げることにした。

「アルコールくん」の運用は始まっており、運用効率化のニーズは高まっている。「アルコールくん」のような仕組みを使えば効率的にチェック結果を記録できる。遅かれ早かれアル



A | 顔認証サーマルカメラ「E G-Keeper」

「ソシアック・ネオSC-502」と「ネオ・ブルーNEB-601」



「アルコールくん」の利用イメージ

心を寄せているが、何から始めるべきか戸惑っている。アルコールチェックのクラウド運用はデジタルに触れるきっかけになり、これを成功体験にデジタル

白ナンバー事業者へクラウド管理「アルコールくん」

「もともととは、今年10月から義務化される予定だった白ナンバー車へのアルコール検知器を使ったアルコールチェックの開発を進めていた。当初は検知器と顔認証機能を組み合わせ、本人確認をし

まずアルコール検知器と顔認証機能で得られた情報をクラウドで保存する仕組みをつくった。運転者が「ア

点を生かせるよう、当社である程度の在庫を確保している」と藁科氏は述べる。

現在、NTT東日本はグループを挙げて地

あり、安心・安全を確保する観点から「アルコールくん」は貢献できる。当社はNTTと伊藤忠商事によって設立

された企業であり、伊藤忠商事から斬新なローバル商材の紹介を受けることができるという強みがある。そうした斬新な商材に、当社の得意とするシステムインテグレーションやクラウドマイグレーションを加えて、お客さまが使いやすいサービスへ進化させ、機器調達から運用までを統合的に提供すること